

ロータリークラブとの清掃活動 空気の綺麗さに魅了され

歯学部歯学科 桐谷 七彩 (横浜雙葉高等学校出身)

5月12日、富士吉田ロータリークラブのみなさんとの地域交流活動に参加してきました。活動内容としては、約1時間恩賜林公園周辺を歩きながら清掃した後、バーベキューを楽しみながら親睦を深めるというものでした。私は4月にここ吉田に来て「空気の綺麗さ」にとても感動しました。都会とは違う澄んだ綺麗な空気を胸いっぱい吸い込むと晴れやかな気持ちにさえなります。しかし、今回ロータリークラブの方々と清掃活動してみると、道端には多くの煙草の吸い殻やお菓子の包み紙などが散乱していました。これではせっかくの綺麗な空気が濁ってしまいます。この豊かな自然を守るためにも、一人一人が日々きちんとゴミを分別し、ルールを守って捨てることを意識することが大切だなと感じました。ロータリークラブの次期代表の方は私たちがほぼ毎朝いただいている食パンを作っているそうです。私たちの富士吉田での生活はたった1年ですが、このように地域の方々に支えていただいていることを改めて実感しました。これからも、感謝の気持ちを忘れずに日々過ごしていきたいと思えます。



留学情報

2年次以降の国際交流

昭和大学では、国際的な視野を持った医療人を育てることを目指しています。そのため下記のように各キャンパス・学部とも海外研修・実習の企画及び実施に力を入れています。

ポートランド州立大学春期プログラム (オレゴン州ポートランド・アメリカ)

- 【募集説明会】 11月 旗の台キャンパス
- 【日程】 3月中旬～下旬(約2週間)
- 【対象】 各学部2～5年
- 【人数】 10名程度



UCLA サマーセッションズ&Hospital Visit (カリフォルニア大学ロサンゼルス校)

- (カリフォルニア州・アメリカ)
- 【募集説明会】 2月上旬 旗の台キャンパス
- 【日程】 6月下旬～8月上旬(6週間)
- 【対象】 医学部2年、歯学部3年
- 【人数】 選考試験による

※ 対象学年は実施時期に該当学年となっている方が対象となります。
※ 上記以外にも学部毎、学年毎に様々な国際交流プログラムが組まれています。ホームページに詳細な掲載があります。
※ 上記のような国際交流プログラムに参加する場合、TOEIC-IP テストのスコア等、語学力の成績を証明する書類の提出が必要になります。

公開講座

～地域の方々と学ぶ医療～

富士吉田教育部助教 有澤 岳



5月25日に富士吉田市民会館小ホールにて、第44回昭和大学公開講座が開催されました。本講座は医系総合大学である本学の特色を生かし「暮らしと健康」をメインテーマに開講しており、今

回は昭和大学の教員2名の講演でした。

最初の講演は、昭和大学保健医療学部看護学科の准教授であり、管理栄養士でもある安部聡子先生。「未病改善のための食生活とは」という演題で、生活習慣病や認知症などの重症化を防ぐ食事について具体的な食品や調理法を交えて紹介されました。アンケートには、未病のための食生活を毎日の生活に取り入れたいという感想が多く、好評でした。

続いての講演は富士吉田教育部の准教授である山本雅人先生。「『におい』は「分子」で書かれたメッセージ!」という演題で、暮らしの中のおいなどの身近な話から、においを感じる仕組みや、におい分子から病気の情報を読み取る医療技術など、においにつながる様々な話題が紹介されました。講演途中で、参加者の方々に精油の嗅ぎ比べを実際に経験してもらうなど、こちらも大変好評でした。

公開講座の終了後に、それぞれの講師の先生に熱心に質問をなされる参加者も多く、非常に有意義な公開講座となりました。

連載企画 寮生活の思い出

第1回 私が過ごした寮生活

富士吉田教育部兼任講師 松永 雅美

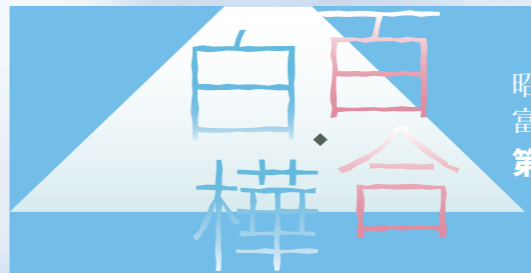
私は1978年(昭和53年)に昭和大学に入学しました。上條講堂での入学式のあと、母と一緒にバスで吉田に向かいました(母は夕方帰京)。バス乗車前に近くのお寿司屋さんで食事をしたのですが、その時一緒だった一人が寮で同じ部屋でした。彼女も含めて同室だったメンバーは今でも良い友人です。百合寮(現SGSC)は、ひと部屋がカーテンで二分割されていて、入り口側が寝室、奥の窓側が学習室でした。今と比べると狭かったなあと思います。

9月には授業はなく、実習(現在のサイエンス実習)が集中実施されていて、特に生物の実習が大変でした。予習しながら眠ってしまったこともよくありました。実習が終わるとすぐに寮祭があり、その頃には模擬店のココアが美味しく感じられるくらい寒かった記憶があります。

私が習ったなかで印象に残る先生は生物の高橋剛男先生、のちの上司でもありました。とても厳しい先生で、大変な思いもしましたが、勉強になることも多くありました。

私が寮生活で心がけていたのは、一人で過ごす時間をもつようにすること、自分がいやだと思ふことを他の人にもしないこと、でした。1月末の退寮時にはもう来ることはないと言残惜しい気持ちで帰路についたのですが、その後35年以上も勤務させていただくこととなりました。たくさんの皆様にお世話になり、感謝しております。

1年生の皆さんにはそれぞれの心に残る寮生活を享受していただきたいと願っております。



昭和大学
富士吉田キャンパスだより
第35号 2019.7.17 発行

発行責任者 富士吉田教育部長 倉田知光
編集責任者 富士吉田教育部広報委員長 田中周一
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田 4562
TEL 0555-22-4403



「富士河口湖町 紅葉台より」富士吉田教育部講師 萩原康夫 撮影

初年次教育の重要性と責任と

富士吉田教育部教授 リベラルアーツ教育研究班

「ヒューマン コミュニケーション」「日本語文章論」科目責任者 田中周一

兼任講師(非常勤講師)として初めて本学の教壇に立ってから早くも30年が過ぎました。多くの学生たちとかわる月日を経るなか、世を超えて変わらぬことばかりでなく、変化として感じられることにもたびたび出会うようになりました。

この十年ほどで、若者たちの日本語力(すなわち、いわゆる国語力)、そしてまたコミュニケーション能力をめぐむ状況には厳しい、時に悲観的な眼差しが向けられるようになりました。とりわけ、将来の職業として医療を選択した学生たちには、他の職業にも増してこうした能力の高さが求められるだけに、いっそう切実な問題として意識されてきたと言えます。

小学校から大学へと十年以上にわたって各種の学校生活を経験した学生たち。個々の局面で様々な変化を経験し、ときに戸惑うこともあったでしょう。しかし、最も大きな変化が訪れるのはこれから。社会人として医療の現場に立つ時です。新たな経験に日々直面することになりますが、そうした場面に共通する特徴のひとつは、異世代間交流です。同世代同士のかかわりでは出会うことのない多様な日本語表現にときに戸惑い、友人関係とはまったく異なるコミュニケーションに悩むことになります。

近年、医療職の国家試験は厳しさを増しています。とりわけ個々の患者のおかれた状況と心理とを把握しつつ、对患者コミュニケーションのあり方を基盤に据えて解答を模索するタイプの問題(症例型の状況設定問題)が増えており、その必然的な結果として、問題文の長文化がここ数年、際立っています。それにもかかわらず、学生たちは言語表現の幅に乏しい短文の無限の羅列であるLINEやTwitterに膨大な時間を費やし、入り組んだ事情を綴った長文を読み書きする力を自らすすんで失っています。

本学の難関入試を見事に突破した優秀な学生たちであっても、この事情はわかりません。

しかし、こうした状況をもたらした最大の責任は、この社会を生み出した大人の世代にあります。自分を取り囲む環境に順応しつつ自己を形成することは、いつの時代でもかわらぬ若年層の成長のありかたです。若者の抱える問題点は大人の世代の置き土産。その自覚を忘れず、学生の教育に取り組む日々です。

広報誌名称について

全寮制を特徴とする富士吉田校舎学生寮は「白樺寮(男子寮)」「百合寮(女子寮)」の二寮からスタートしました。「赤松寮」「すみれ寮」を加えて四寮となった現在も、白樺・百合という名称は受け継がれています。この名を冠した「白樺・百合」という広報誌の名称には、過去・現在・未来の学生たちが日々ごとに成長をとげて前進しつつも、常に初心を忘れず、伝統を受け継いでくれることへの願いが込められています。

大学では学生の国際交流を推進するため、海外実習・研修補助制度を設けて積極的に支援しています。

新生活のスタート

医学部医学科 林 あや乃 (専修大学松戸高等学校出身)

待ちに待った入学式は、明治神宮会館で4月12日に挙行されました。着慣れないスーツで見慣れない人々と座り、緊張を感じていたことをよく覚えています。初めて歌う校歌と初めて唱和する昭和大学宣言が新鮮で、ようやく昭和大学



の学生になったことを実感しました。式中の新生歓迎プログラムでは、新生クラブ歓迎委員会の委員2人による楽しいお話、MEDICAL ALL STARS JAZZ ORCHESTRA (通称MAS)による演奏、昭和大学応援指導部による新生へへのエールを受けました。先輩たちの温かい歓迎を受け、これから始まる大学生活にますます期待を膨らませました。式の最後では昭和大学理事・内田樹氏による、「大学で何を学ぶか」をテーマとした特別講演がありました。様々な視点からの話を織り交ぜた講演を聴き、大学生として学ぶ姿勢について考える良い機会になりました。式が終わると、そのままバスに乗り富士吉田キャンパスへ向かいました。

部屋のメンバーと顔を合わせ共に一夜を明かした翌日、スクエアガーデンで入寮式が行われました。富士吉田教育部長、富士吉田教育部学生部長、さらには富士吉田市長から入学の祝辞と励ましの言葉をいただきました。寮での暮らしと大学生活に期待と不安を抱きつつ、こうして新生活のスタートを切りました。

入寮式・ウェルカムパーティー

医学部医学科 下島 颯太 (浅野高等学校出身)

2019年4月12日、昭和大学の入学式が明治神宮会館で行われました。入学式が始まる前の皆は、これから始まる寮生活や大学生活に対して楽みな気持ち、緊張や不安が入り混じったような顔をしていました。新生である私たちは大学のこと、ましてや周りにいる人のことも全く知らない状況であって、リラックスにはほど遠い状態でした。入学式が始まり、学長先生、理事長先生のお祝いや励ましの言葉をいただいた後、昭和大学の校歌や昭和大学宣言が行われ、新生は初めて耳にする校歌や宣言に全く慣れない様子でした。しかし、上級生の先輩方が堂々と校歌を歌い、宣言をなさっている姿を目の当たりにすると、昭和大学が学生から愛されているということがひしひしと伝わってきました。その後、歓迎セレモニーとして、応援指導部、グリークラブ、管弦楽団、MASの先輩方の素晴らしいパフォーマンスが終わると新生の空気もいづらか和やかになりました。

入学式が終わると、新生はバスに乗り込み、手を振りながら見送る家族をあとにして、富士吉田キャンパスへ向かいました。バスの中では、緊張から解放された、寝ている人もいれば、バスの席が近い人同士で自己紹介や、身の上話をしている人もいました。周りの人との会話に慣れてきたころに、バスは富士吉田キャンパスに到着し、スクエアガーデンに寮の部屋ごとに座り、入寮式が行われました。入寮式が終わり、外に出てキャンパスを眺めると、改めて昭和大学の一員なのだという実感に包まれました。



防災訓練の反省を活かして

保健医療学部看護学科 一ノ瀬 果南 (淑徳巣鴨高等学校出身)

入寮後、二度の防災訓練が行われました。まず、入寮して一週間も経たない4月18日に抜き打ちで夜間防災訓練が行われました。警報には驚きましたが訓練だとわかると、指示に従い避難先である体育館へ避難を開始しました。私が寮長を務める百合寮は体育館が一番近いので、避難にそれほど時間がかからないと予想していたのですが、実際は思っていた以上の時間を費やしてしまいました。原因は2つあります。1つは、指示された方法で寮生を誘導できなかったことです。フロア委員や室長に誘導時の役割を上手く伝達できていなかったために、各々の役割を把握できていませんでした。もう1つは、体育館での点呼に時間がかかってしまったことです。フロアごとに避難をしなかったために、全員が集まるのが遅くなり、点呼に手間取ってしまいました。そこで、非常時の点呼について副寮長と話し合い、部屋ごとに揃ったところから室長が報告をする方法を考えました。後日に行われた昼間時の訓練では点呼のやり方を変えたところ、夜間時より早く点呼を取ることができました。

災害はいつ起きるかわかりません。成功した結果に満足せず、非常時に全員が安全な場所に素早くできるように、常に寮長としての動きを意識したいと思います。



体育祭

体育祭部門長 保健医療学部看護学科 青本 風羽 (横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校出身)

6月22日午前中、寮祭の幕開けである体育祭を、今年も無事に開催することができました。今年の体育祭は、天気が心配されていたため、晴れプログラムと雨プログラムを準備し、雨天にも対応できるように企画しました。

富士吉田キャンパスは、全員が同じ場で生活しているとはいえ、2か月も経つと、交友関係が固定化してきます。そこで、種目のほとんどは大人数で行うものにし、体育祭が新しい交友の場となるよう工夫しました。

このようなイベント長を担うのは、初めてだったので非常に不安でしたが、体育祭部門の51人の協力で、効率よくスムーズに準備・運営が行えたと思います。「楽しかった!」と言ってもらえるたび、部門長を頑張ってたかったなと思います。また、楽しく体育祭を行えたのは、多くの助言をくださった先生方、体育祭決起集会を開催してくださった前夜祭や、盛り上げを手伝ってくださった寮長・副寮長方、なによりそれに乗って盛り上げてくださった学生の皆様のおかげです。協力をくださった皆さん、本当にありがとうございました。



想いを繋ぐ 寮祭2019



寮祭実行委員長 医学部医学科 野口 朋子 (栃木県立宇都宮女子高等学校出身)

今年度の寮祭は雨の予報だったため体育祭、イベント、前中後夜祭は全てスクエアガーデンでの開催となりました。実行委員や部門長などが決定してから約1か月半、何をどう進めれば良いのか分からず試行錯誤の日々でした。そんな中で部門長をはじめ多くの学友たちの努力と協力により、寮祭を迎えることができました。イベントや前中後夜祭での軽音やダンスなどの発表、コンパや部活動などの団体による模擬店、バザーやストレスチェック、お化け屋敷そして様々な装飾等は一人一人がおもてなしの心を持ち、たくさんの人に楽しんでもらいたいと考え抜かれたものです。そこにこそ今回のテーマHeart to heartが表れていました。寮祭当日は近隣地域の方々や保護者の方々、オープンキャンパス参加の高校参加の高校生など多くの方に楽しんでいただきとても嬉しく思いました。私たち学生の想いが少しでも伝わったのか

なと思えた瞬間でした。

寮祭を開催するにあたり、心配もおかけしましたが様々なサポートをくださった先生方や事務課の方々、寮祭へのご理解ご協力をくださった地域の方々感謝申し上げます。そして共に寮祭を盛り上げてくださった全学生の皆さん、本当にありがとうございました。

※付記「コンパ」・・・男子寮、女子寮からそれぞれ2～3部屋ごとに選ばれ、計16人から24人で構成されるグループをコンパといいます。